

むかわ竜、馬文化、螺湾ブキ… 中央バスが北海道遺産ラッピングバス



実現に汗を流した戎谷侑男北海道遺産協議会副会長・北海道中央バスシービーアースカンパニーディレクター(右)が説明した



札幌市豊平区工場の工場・記念館群としかへ間歌泉

▲「むかわ竜」と呼ばれるむかわ町穂別の古生物化石群と左から二階堂恭仁北海道中央バス社長、鈴木直道知事、石森秀三北海道遺産協議会会長

北海道中央バスの北海道遺産ラッピングバスが完成し、早ければ2月から定期観光バスや観光貸切バスとして運行を始める。
北海道遺産20周年記念事業として、北海道遺産協議会の製作依頼に中央バスが快諾して実現した。同社の北海道遺産ラッピングバスはこれで4台目。
北海道遺産は、次の世代に引き継ぎたい有形・無形の財産の中から選ばれた自然や歴史、文化、生活、産業など道民全体の宝物をいう。



足寄町の螺湾ブキは高さ約10メートルにイタビで覆われる

2001年に第1回選定分で稚内港北防波堤ドームや旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群、留萌のニシン街道など25件が選ばれ、04年に第2回27件、18年に第3回15件、そして22年の第4回選定分で北海道米のルーツ「赤毛米」、しもかわの循環型森林文化、今金・美利河の金山遺跡などの6件と名称変更1件が公表され、現在は総計74件となっている。
これら多くの北海道遺産には、北海道遺産に深く関わりながら活動する、担い手の市民が存

在する。道民の宝物を地域で守り、育て、活用していく中から新しい魅力を持った北海道を創造していく道民運動なのだ。
選定基準は、学術的や美的な価値など「客観的な評価基準」だけでなく、地域が保全・活用に取り組みでいるものや、今後の取り組みに期待できるものなど「思い入れ価値」が大きなウエイトを占め、さらに「北海道らしさ」を加味して選ばれている。一般的に遺産という「過去のもの」とイメージされがちだが、「地域の未来を創造していく資産」(同協議会)だ。
1月18日に道庁赤レンガ庁舎横で行われたラッピングバスのお披露目では石森秀三同協議会会長(北海道博物館館長)と鈴木直道知事、二階堂恭仁中央バス社長がそれぞれ挨拶。「走る広告塔」により、多くの人の目に触れられ、そして足を運ぶことで地域の活力へとつなげる期待感が述べられた。

(T)